



# 動物レスキュー通信

2014年10月 第17号 (平成26年10月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## 災害時の 動物との同行避難



今年には台風などによる雨や地滑りの被害が多く報道されてきましたが、その他にも地震、竜巻、火山噴火など、日本はとて自然災害の多い国であると言えます。そして3世帯に1世帯はワンちゃんやネコちゃんと共に暮らしている家庭だと言われています。その中で、災害が起きてしまった際の避難時に家族の一員であるワンちゃんやネコちゃんをどうするかという事が課題でもありました。そこで環境省が「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を作成し、災害時の避難はワンちゃん、ネコちゃんなどの「コンパニオン・マル」との「同行避難が原則」としました。同行避難をする為にも日頃からの備えが大切。しておくべき事、用意しておくべきものをまとめてみる事にしました。

### 日頃からの備え

①お住まいの地域の事を知ってください。現在の居住地に過去で起こった災害に付いて知る必要があります。それらの災害は今後も起こり得るからです。そしてハザードマップなどを用いて予測される災害の被害範囲を知っておきましょう。その上で「広域避難場所」、「避難場所」、「避難経路」などを確認しておいて下さい。そして自治体ごとに災害時における動物保護に関してガイドラインを設けてありますので、それを

確認し、ペットフードの備蓄や獣医師との連携の有無、同行避難の可否や迷子になつた際の問い合わせ窓口などを確認しましょう。②避難袋を用意しましょう。フード(1週間分)、水、フード容器、水容器、大好物のおやつ、キャリーバッグ、ケージ、首輪、リード、毛布、タオル、おもちゃ、救急セット(薬、ガーゼ、コットン、爪切り、ウエットティッシュ、消毒薬など)、動物の健康状態を記したもの、写真(動物及び飼い主さんが一緒に映っているもの)、ペットシーツ、トイレ容器(ネコ用トイレ砂)、フン処理袋、ゴミ袋など。③迷子札、鑑札などを必ずつけておく。マイクログチップがあれば迷子になつてしまった際、捕獲されてしまつても飼い主さんの元に帰ってくる確率が高い。④基本的なしつけ。これはすぐに準備できる事ではありませんので、日頃からの行動が大切です。災害時にせつぱく同行避難できたとしても、他に避難してきているワンちゃんやネコちゃんがいれば、動物が苦手な人などとも一緒にいる事になるので、その中で問題なく過ごす事が出来るように日頃から人に慣れさせたり、トイレの相や無駄吠えなどが無いようにしつけてあげる事がとても重要です。又、抜け毛や体臭のケアなども大切です。⑤避難のシミュレーション。人間用と動物用の避難袋、そして動物を入れたキャリーバッグを持って避難所まで歩いてみて下さい。それを一度経験する事によって問題がある場合には改善点が見えてくるはずです。自治体に

よつては同行避難訓練を行っている所もあるので、参加してみるのも良いでしょう。

### ついに災害が起きてしまったら

災害が発生してしまつた場合、まずは飼い主さんたち家族の身の安全を確保し、続いて動物達の安全を確保します。その際にはできるだけスムーズに避難できるように、ワンちゃん、ネコちゃんの居場所を確認し、バッグになつてしまつている場合は優しく声をかけて呼び戻し、リードを付けたり、キャリーバッグに入れてあげるなど、することができれば、怖がつて逃げだし、迷子になつてしまつような事も避けられます。その後、災害の状況により人間用と動物用の避難袋を持ち、動物との同行避難を開始します。この時に、どこに同行避難していいのかわからず慌てしまわないうように、前もつて自分が避難する場所が動物の受入れが可能かどうかを必ず調べておきましょう。又、これらの備えは、基本的にワンちゃん、ネコちゃんに付いての事です。それ以外の動物と一緒に暮らしている方々は独自に備えが必要です。フードの支給を行っている自治体でも、基本的に犬猫のフードのみなので、フードは十分な備蓄が必要です。又、ペット可の避難所や仮設住宅においても、動物の種類によっては受け入れてもらえない事もあるので、万が一の場合を考えて一時預け先を探しておく必要があります。

以上のように、日頃からの備えと災害時の行動、両方がとても大切となる動物との同行避難。これを機に家族と真剣に災害時の事に付いて話し合い、いざという時の為に備えて下さい。(詩月)